

貧血と好酸球増多を伴い便中に2種類の結晶成分を認めた裂頭条虫症例

◎新井 未来¹⁾、山田 佑真¹⁾、山本 誉¹⁾、余根田 直人¹⁾、畑 久勝¹⁾
恩賜財団 済生会 滋賀県病院¹⁾

【はじめに】日本海裂頭条虫感染症は一般的に腹部不快感、下痢、食欲不振を自覚する程度の症状であることがほとんどであり、広節裂頭条虫症でみられる悪性貧血をきたすような例は報告されていない。今回、貧血と好酸球増多を伴い、便中に2種類の結晶成分を認めた症例を経験したので報告する。

【症例】30歳代男性。既往歴・服薬歴：なし。海外渡航歴：なし。現病歴：1か月前より軟便傾向、数日前より下痢。入浴時に肛門より条虫様の物体が排出されたため消化器内科受診。寄生虫感染を疑い虫卵検査および血液検査が実施された。

【結果】直接塗抹法により虫卵検査を実施、鏡検上無数のシャルコ・ライデン結晶およびヘマトイジン結晶を背景に数個の黄褐色卵円形で卵殻が薄く、小蓋と小突起がある虫卵を認めた。血液検査では血色素 12.9g/dL、MCV90.0fL、好酸球数 1230/ μ L と軽度の正球形貧血および好酸球増多を認めた。非特異的 IgE は 14IU/mL であった。虫卵と持参された虫体片節の形態的特徴から裂頭条虫と考えられた。貧

血と好酸球増多がみられたことより広節裂頭条虫との鑑別が必要と考え、ビタミン B12 (以下 VB-12) の追加検査と駆虫した虫体の遺伝子解析を提案した。駆虫目的で入院した際の血液検査では血色素 14.3g/dL、好酸球数 120/ μ L、VB-12 300pg/mL であり貧血や好酸球増多はみられず VB-12 も基準範囲内であった。遺伝子解析の結果、虫体は日本海裂頭条虫と判明した。

【考察】貧血および好酸球増多と裂頭条虫症との関連は明らかではないが、便中にシャルコ・ライデン結晶とヘマトイジン結晶を認めたことより、消化管で何らかのアレルギー反応と出血があったことを示唆していると推測された。生鮮魚の輸送流通システムの発達により日本海裂頭条虫以外の海産性裂頭条虫症に遭遇する可能性も考えられることから、虫卵・虫体観察以外の検査所見にも着目し、必要に応じて遺伝子解析を実施することが重要と考えられる。

【謝辞】遺伝子解析をして頂いた北陸大学 医療保健学部 松村 隆弘先生に深謝いたします。
連絡先：077-552-1221 (内線 3520)